

[illegible]





に至りてコント氏其積極論を發表し、デカルト氏と正反對の哲學を建設せり、因て又積極論は佛國の哲學かと思へば、必ずしも然らず、コント氏以後積極論を主張するもの割合に少し、之れを要するに、佛國は國民に特異なる哲學を有するものにあらざるなり、即ち其思想は健全なる發達をなし、ものとするを得ざるなり、我國國民の思想の發達は此の如き不規則無秩序のものにあらざるして、一定の性質を有し、一定の傾向をなすものなり、是れ吾人が以て甚だ喜ぶべき徴候なりとする所なり、世人或は云ふ日本人は佛國人に似たりと、其輕佻浮躁の點、差相似たるものあり、然れども日本人は佛國人の如く自國の歴史を侮蔑するものにあらざるべし、少くも思想界に於て佛國の如く甚しき亂調を呈せざることは疑ふべからざる事實なり、余の見解に據れば、日本民族の思想は反りて英國に似たるものあり、日本と英國とは、常に其國の位置、形勢、等の相類する而已ならず、又思想界に於て自然同一の傾向あるを見る、英國の哲學は多くは經驗的、的にして、我邦の哲學も亦多くは、經驗的現實的なり、英國思想の最も我邦人に入り易く、又我邦人が英國に對して同情を表するに至るもの、抑、又其故なきにあらざるなり

第五卷 第一章

主義ある財政經濟策

### 主義ある財政經濟策

添田 壽一

小黨分裂の積弊を一洗し自由進歩の兩派合同して憲政黨なる一大公黨を組織せる結果として出現したる前内

り、蓋し我邦の如きは地形に變化多く、或は海灣嶋嶼、或は山嶽川流、交互錯綜して、而して其間を彌縫するに、參差たる紅綠を以てす、眞に是れ一大庭園と謂ふべし、此の如き嶋國に住するもの、如何んして、其周圍の感化を免れ得べきものにあらざるなり、縱横眼を遮る所の鮮明麗美の景色は人をして客觀的現象に注意せしめ、又四方より來着する所の異域の報道は人をして現實の事情に注意せしめ、假令沈思冥想して獨り主觀世界に彷徨せんとするも、是れ甚だ爲し易からず、又形而上考索によりて得たる結果は、多くは國民の注意を惹くに至り難し、是を以て古今を連貫して史的發達をなせる我邦の思潮は經驗的現實的なり、英國思潮の我邦に類似するもの、亦同一の事情に淵源するものなくんばあらざるなり

(未完)



閣が採用せし財政經濟計畫は明治三十一年十一月十日頃の各新聞を以て公けにせられたり。此の計畫や殆ど調査を了し議會開會の時期を待つゝありしに、憐むべし内閣交渉の爲め提出に至らずして最後を遂げたり。然るに本豫算のみは山縣内閣の採用する所となりしは以て聊か之が編成に従事せる人々の勞を慰するに足るべきか。之に反して歳入方案即ち租税計畫に至ては主義精神に變更を來したるが如し。仍て先づ憲政黨内閣の租税計畫は果して如何なりしやを開陳して前後比較の用に供するは蓋し無用の業にあらざるべし。

世俗の所謂戰後經營の爲め財政經濟兩ながら一時に急激の膨脹若くは變化を醸し國家經濟をして動搖極りなく進退維谷の域に陥らしめたり。就中軍備擴張に急なるの極、殆ど他の國務や一般經濟の如何を顧省するの遑なく遂に財政の爲めに經濟を傷害するの端緒を開き、巨額の軍事費支出の爲め他の生産的經費は甚しく蠶食せられ歳入不足を感ずること愈切ならんとす。茲を以て三十二年度豫算の編成に際し、歳出に於ては成るべく不生産的經費の増加を避け、運輸、交通、教育、外交等に關する經費よりは寧ろ軍事に屬する經費を多く節制するの方針を執りたり。蓋し所謂政黨内閣の樹

立を時機として軍備費に關する方針を一新するにあらざれば他日之を改むるの時機なからんことを恐れたればなり。

次に財源を求むるに當つても豫め一定の方針を定めたり。凡そ財政の經濟と相伴ふべきや論を俟たず。是れ若し經濟如何を省みずして濫に財政のみ膨脹するときは遂に財政の爲めに經濟を破壊するの虞あるを免れざればなり。殊に租税は直接一般經濟に至大の影響を及すを以て、税法の制定に際しては之が爲め經濟を傷害せず就中生産者の負擔をして増加せしめざるや否やに就き深く注意するを要す。殊に本邦の如く對外商業の發達幼稚にして海外貿易上未だ優者の地位を占むること能はざるものに在ては、生産力の増殖を以て主眼を爲すを要するが故に農工商各業に於ける生産者の負擔は寧ろ漸次之を輕減することを勉めざるべからず。此の方針に基づき主として財源を不生産的消費に求むることゝせり。酒税の増率、煙草專賣の増價、砂糖税の制定に重きを置きたる所以は抑も茲に存す。之と同時に内國課税品と競争するの虞ありと認めたる外國輸入品に向つて均衡的課率を加へ現に「アルコール」關稅定率の二倍半増加を始めとし外國酒類及び製造煙草の

定率を増加せんとせり。其他葉煙草を輸入するの權は政府に限り、以て内國品をして外國品の爲めに壓倒せらるゝことなきを期したり。此の如きは從來故に條約を不利益に解釋する弊習を打破したるものにして全く條約改正の恩恵なるのみならず安政條約の下にあつては殆ど望み難き所なり。彼の世上の物議を招きたる砂糖税に於ても黒、赤、白、の種類に依りて税率を異にし粗糖の税率を低からしめ、精製用原料粗糖に對する税額は之を拂戻し、輸入砂糖は輸入の際に又内地の砂糖は製造家の手を離るゝ時に課税するの組織なりしを以て、内國砂糖の生産を衰頹せしめ若くは製糖業を妨害し或は課税の手續煩勞を極むと云ふが如き攻撃は其當を得たるものにあらざるなり。此等の所謂消費税にて出入相償ふことを得せしめんことを苦心せるも軍事費其他各省經費に於て尙は意の如く削減を施し得ざるものありて歳出總額は二億二千九百餘萬圓に達し、既定の歳入一億八千八百餘萬圓を以てすれば四千餘萬圓の歳入不足を生じ、隨て歳入の増加を必要とするに至れり。此の時に際し經費を節減せんと欲せし者は財源なきを理由と爲し、經費要求者は種々の候補財源を提供し、此の事誤て多少世上に傳はり掃き寄せ財源な

きの冷評を受けたるは遺憾の極なりとす。根據なき世評の如何は敢て意に介するに足らざりしも、奈何せん苟も生産者の負擔を増加せすと云ふ主義を放棄せざる以上は酒、煙草、砂糖以外に巨額の收入を生ずべき財源に乏しく、然ればとて收入の少なき雜税を數多起さんことは勞多くして得策にあらず。一定の主義に基づきて租税計畫を立てたるが爲めに免れざる所の苦心を要したり。或は外債に依らんか、一般行政費就中軍事費の如きを公債にて支辨するは抑も財政學上の原則に反するのみならず財政紊亂の俑を作るものにして極力反對せざるべからず。或は償金繰入れを以て一時を彌縫せんか、既に一般會計に貸與せるものにして返戻せられざる以上は三十二年度償金の現金勘定に於て殘餘なきのみならず却て不足を告ぐるが故に之亦不可なり。況や償金繰入れも公債に依頼すると相距ること遠からざるに於てをや。尤も事業公債未募額を海外市場に於て募集するの際之をして容易に且つ有益ならしめんが爲め公債條例に根本的改正を加へ以て償金部に返戻するの經畫なりしも之すら幾分か未必の事項たるを免れず。事茲に至りては通常人の思想に浮ふべきは地租の増徴より外なかるべし。然れども是れ前提に



置きたる生産に課税するは不可なりとせる方針に反するを奈何せん。況や地租の増徴には地價修正なる難問題の關聯せるに於てをや。況や不幸若し再三豫算の不成立を見るが如き事あらば財政整理上の困難は愈々大なるべきを以て地租増徴の如き紛擾の種子となるべきものは政略上勉めて之を避けざるべからざるに於てをや。且つ地租の増徴は今後増加すべき地方費支辨の用を充すべき財源を奪ふか否らされは土地の負擔を過重ならしむべき結果を生ずべし。殊に國家一旦事あるの日に依るべきの税源は地租の外あるべからず。今日之を増課するは國家の危急に際して大に依頼するに足る所の好財源を失ふに等しき憾あるよりして地租増徴よりは寧ろ所得税登録税の税率を改正し新に日本銀行に課税して以て經費を補充することゝなれり。此の如く地租以外に經費の不足を補足すべき方途の存する以上は必しも地租を増加せざれば財政の整理困難にして其基礎安固を缺けりとは謂つべからざらん。

所得税は法人を課税外に置き其税率粗大にして現行法令と合同せざる所あるより早晚改正の必要あり。又登録税は民法商法不動産登記法等改正の結果多少補正せざるべからず。故に兩税とも法文整備と同時に多少税

す。更に二千萬圓即ち合計三千萬圓の資金を外國爲替再割引の用に供せしむるときは今日に比して三倍の働きを爲し得べきが故に貿易の發達上多少慰むる所あることを得べし。然り而して二千萬圓の増加と同時に現今の再割引歩合の二分を低減して一分と爲し、確實を缺がざる以上は正金銀行以外の銀行と雖も再割引の恩恵に浴せしむることを期せり。要するに三千五百萬圓の増額を企圖せるは本邦商業手形の發達を促すと同時に一層低利なる外國爲替資金を供給せんが爲なり。是れ本邦の如き高利の資金を以てして歐米は愚か支那とすら競争すること頗る困難なるべきや論を待たずして、漸次金利を低廉に赴かしむるは外國との競争上失敗なからしめんが爲め緊要なりと信したればなり。而して保證準備發行の増額は基礎既に確立せる日本銀行の利益をして愈々多からしむるの結果となるが故に、之に向て今日まで遷延せる課税を決定するは當に其時機なりと斷定せられたり。然れども此の保證準備發行擴張に就きては大に注意を要するものあり。第一苟も之が利益を完くし其弊害を避けんと欲せば、内地に用ふべき千五百萬圓も成るべく真正なる商業手形の割引に供せしめ殘餘の二千萬圓も決して外國爲替以外に用

率を變更して増税の用に供せられたり。又日本銀行課税の問題は從來未決の儘に經過せるものにして、之亦保證準備の増加と同時に結了せしむることゝなれり。茲に至りて勢ひ彼の保證準備の擴張に論及せざるを得ず。近時日本銀行制限外兌換券の發行は殆ど斷間なくして常時定例の如くなれり。此の如きは制限外發行の本旨性質に反するものにして、制限外にして平常斷間なく發行せらるゝときは彼の屈伸法の妙味は消失し、元來非常の際に用ふべき手段も平常のものとなつたのみならず是れ本邦經濟の現況が八千五百萬圓の保證準備發行額にては不足なることを事實上に證明するものと云はざるべからず。二十七八年事件以後我國の經濟界は變態に陥りたるより制限外の發行を促したるは事實なり。然るに其後經濟界の狀態稍々平常に復したるにも拘らず尙ほ制限外發行の必要止まざるより見るときは、例へば主として内國商業手形割引の用に供する爲め一千萬圓若くは一千五百萬圓まで保證準備の發行額を増加するは蓋し止むを得ざる所なるべし。又今日の如く僅かに日本銀行をして一千萬圓内外の金額を正金銀行に融通せしめ以て外國爲替の再割引に用ふるのみにては、外國貿易の發達上未だ満足すべきにあら

ぬしむべからず。第二合計三千五百萬圓の増額も市場の状況を熟察し眞正確實なる必要發生し精査熟察したる上に於て始めて發行すべく、日本銀行の利益にのみ着目して濫りに之を極度まで發行するが如きとは慎まざるべからず。第三一度實際の必要に基き保證準備額を一億二千萬圓まで擴張する以上、今後制限外の發行は決して之を漫りにせず、眞實非常例外止むを得難き場合に限り、萬一之を發行する事あるも成るべく速に回收を勉め、從前の如く名實相反するものたらしむべからず。此三點は保證準備額増加の必要條件とも見做すべきものにして、此等條件の具備果して望み難しとせば其増加の弊害は利益に超過せんも知るべからず。以上陳述せる租税計畫も惜哉納期の關係より酒税は召集後直に議會に提出し如何に之が實施を急ぐも三十二年一月査定分より、烟草は同年七月より砂糖は條約の關係より來年の九月より以前に實行し能はざるが故に、三十二年度には全年分を徵集する能はざるの困難あり。即ち以上述べたる各種財源の増加金額を擧ぐれば、三十二年度に於て現行收入に比し増加する金額は所得税百二十萬圓餘、酒税千七百五十萬圓餘、酒類其他の輸入税十七萬圓餘、砂糖税百五十七萬圓餘、登録税



百六十萬圓餘、葉烟草專賣六百九十七萬圓餘、日本銀行稅百三十萬圓餘、合計三千餘萬圓となるの計算なりき、然るに三十三年度に至れば酒は二千七百十八萬圓餘、海關稅は二十五萬圓餘、砂糖は三百九萬圓餘となり、葉烟草の專賣は千二百萬圓餘を生ずる見込みなりしが故に、總計金額は四千六百餘萬圓となるの計算なりき。之を以て前記經費不足額大凡四千萬圓の補填に充つるときは三十三年度には六百萬圓の殘餘あるべき計算となるも三十二年度には千萬圓許の不足を見るの止むを得ざる結果となる。然ればとて若し三十二年度に於て毫も歳入不足を見ざるまでに租稅收入を増加するものとせば三十三年度に及びては必要もなき金額を無益に徵集し置くか、否らざれば不用の經費増加を誘致するの結果を生ずべし。故に止むことを得ず三十二年度に限り五十萬圓の製鐵所擴張費三百九十萬圓餘の電信改良擴張費の如き生産的性質を帶ふるものを公債支辨とせる外陸軍軍事費中幾分かを償金繰入の作用に依りて支辨せり。砲臺建築費の三百萬圓餘初度調辦費の三百八十萬圓餘是れなり、勿論償金支辨額は三十三年度に至れば租稅を以て支辨して尙ほ六百萬圓内外の殘餘あるのみならず、三十二年度以降臺灣經費補充二百

五十萬圓を一般歳入の支辨に改めたるが如きは一大改良にして是れ決して不確實なる財政計畫とは謂つべからず。  
前内閣は唯に租稅の一方に偏せざりしのみならず生産に關する租稅又は惡稅を廢止し、不備の稅法を整理する等の事も同時に勉めたり。即ち輸出稅の全廢は勿論、小切手を免稅する等證券印稅法に改正を加へ以て商業其他日常取引の便益を圖り、北海道水產稅、同地方稅、沖繩縣船稅の如き煩勞多きに比し收入の少なくして寧ろ地方稅たるに適せるものを全廢し、賣藥稅法を整備し殆んど四十四萬圓の金額を租稅整理の爲めに抛つを惜まざりき。  
其他世上の疑問となりし稅目は決して少なりとせず。然れども市街宅地の如きは一部に限るの缺點あるのみならず、結局借地人借家人就中細民の負擔を増加するの虞あるを以て排斥せられ、醬油稅の如きは人民日常の必需品に賦課せらるゝものなるが故に徵收は便なるべきも良稅とは謂つべからず。世上に散見せる鹽稅說に至ては殆ど人頭稅と擇ぶ所なき惡稅なりとす。其他世上には兵役免稅などを主張する者ありしが、此の說に在て階級を設けざれば非常に公平を缺き、階級を

設くるときは殆ど所得稅と重複する事となり輕々採用すべきにあらず。彼の骨牌稅に至ては時を矯正する爲めには可なるべきも收入額の少なる殆ど省るに足らざるなり。或は家屋稅の如きも我邦の如く家屋の構造粗惡にして自家居住の多き處に於ては巨額の歳入を得るに足らざらん。然れども彼の絹布稅に在ては多少注目するの價值あるものゝ如し。蓋し我國人の如く絹布を浪費するは世界稀に目撃する所にして、近來殊に奢侈の弊風熾なるが爲めに絹布使用高は遂に増加せるものゝ如し。故に絹布稅を起し輸出絹布には戻稅を施し幾分か絹布の浪費を防ぎ、寧ろ生絲又は羽二重として之を海外に輸出することを得ば、輸出の増加上大に利益あるべし。唯惜むらくは絹布稅徵收方法の容易ならざるにあり。

若し國民經濟の如何をも省みず、毫も主義方針に拘泥せず、狹意なる財政の便宜のみを圖らば財政計畫を編成するに於て甚しき苦痛を感ずることなし。然れども此の如きは是れ凡庸財政家の所爲に過ぎざるのみならず、結局一般の經濟を傷害し、遂には財政自身の衰頹を來すを免れず。之に反して苟も一定の主義を樹立し之に基づきて畫策するときは、局外者の推測し得ざる

困難に遭遇するや必せり。是れ我が關係せる財政計畫には世人に知られざる苦心の痕跡を存する所以なり。之を要するに分離前の憲政黨内閣の租稅計畫は成るべく酒、煙草、砂糖の如き奢侈的消費物の課稅に重きを置き、同時に外國輸入品の取締りを嚴密ならしめ、生産に妨害ある租稅は全廢し、不備の稅法は之を整理し、勉めて財政の爲めに經濟を傷害するの結果を生ぜざらん事を期したるものなり。故に其の財政策は寧ろ經濟策と謂て可なるものにして、殊に動產銀行設立の計畫に就きて鑑みるときは前内閣が如何に經濟の發達に注目せるの深かりしやを知るに足るべし。或は前内閣が地租を増徴せずして市街宅地を増徴すと云ふが如き流言に基き、農業者を偏愛して、商工業者を顧みざりしやに傳へたる者ありと雖も、是れ輕妄の最も甚しきものに於て、其決して然らざりしとは既に述べたる所と將に述べんとする所とに依て考察せば立どころに氷解すべきなり。  
(以下次號)



## 獨逸政黨現狀

文學士 有賀長雄

獨逸帝國議會は本年六月に於て總選舉を行ひたり、是れ帝國建設以來第十回の改選なり、而して十一月五日のロイテル電報は早く既に獨逸皇帝が兵備豫算案を議會に提出せしめたるを報せり。獨逸帝國には我邦の既定歳出の如き制度なく海陸軍費は七年又は五年繼續にて議會の協賛を経るとにて、其の七年又は五年を経過し、若し次の數年に對する繼續豫算の協賛を得ざることは、理論上に於て帝國政府は一人をも養ふとを得ざる状態に陥るなり。實際上に於ては固より孰れの黨派も國に兵備の必要なることを知るが故に、全く協賛を拒むが如きと萬ある可からずと雖も、甚しく其の兵數を削減せらるゝの恐れあり、然るときは大に内外に對する政界に影響するとなるを以て、新たに協賛を求むる一年に至れば政府は成る可く多數の賛成を得むとを勤めざる可からず、況してや從來よりも其の兵員隊數を増加せむとするに於てをや。

現行の陸軍繼續豫算は千八百九十三年に協賛を経たる

ものにして同年十月一日より千八百九十九年三月三十一日までの繼續なり、故に明年四月一日以前に次の繼續豫算成立せざれば帝國政府は上述の如き困難に陥るへし、是れ獨逸皇帝が現在政黨の操縦に苦心しつゝある所以にして、東洋旅行の日數を短縮し急ぎ歸國したるも開院式に親臨する爲めと傳へたり。本年新たに改選せられたる帝國議會は果して皇帝の新繼續豫算に協賛すべきか、是れ歐洲今後數年の形勢に關係する重大問題にして、彼れを知り己れを知らむとする憂國者の注目すべき所なり。

獨逸帝國は一般選舉にして滿二十五歳に達し、一年以上其の選舉區内に居住したる者は何人に限らず、選舉人又は被選人たるを得べく、總体の議員數は三百九十二名にして、二十六國より之を選出す、其の中二百三十六名は普魯西、四十八名は巴威里、二十三名は索撒、十七名は瓦敦堡、十五名はアルサス、ロレーン、十四名は婆典、九名は易仙、六名はメクレンブルクより出だし、其の他の小國は各一名乃至三名の議員を出だすなり、而して黨派の旗色は左の如く分れたり。

政府黨 (一) 右黨 (二) 中央右側黨 (三) 帝國黨 (四) 獨逸保守黨 (又曰クルイツ黨)





おお

大蔵

伯島七隈

伯島七隈







江戸  
下町  
の  
下